

**製品名: RPA p32 (リン酸化 Ser33) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab05381**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	32kDa

## 抗原情報

遺伝子名	RPA2
別名	RPA2; REPA2; RPA32; RPA34; Replication protein A 32 kDa subunit; RP-A p32; Replication factor A protein 2; RF-A protein 2; Replication protein A 34 kDa subunit; RP-A p34
遺伝子 ID	6118.0
SwissProt ID	P15927
免疫原	抗血清は、ヒト RFA2 の Ser33 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

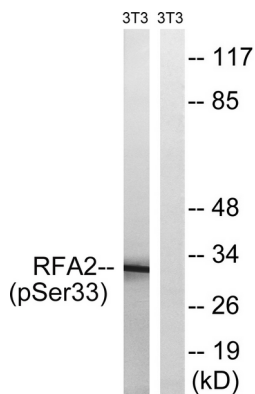
## 背景

機能:DNA の組み換え、修復、複製に必要です。RP-A の活性は、一本鎖 DNA の結合とタンパク質相互作用によって媒介されます。、PTM:細胞周期依存的にリン酸化されます (S 期から有糸分裂まで)。DNA が損傷すると ATR によってリン酸化され、核フォーカスへの移行が促進されます。in vitro では、Ku と DNA の存在下で PRKDC/DNA-PK によって、また CDC2 によってリン酸化されます。細胞内局在:PML 核体にも存在します。DNA が損傷すると、個別の核フォーカスに再分布します。、サブユニット:70、32、および 14 kDa 鎖のヘテロ三量体。DNA 結合活性は、70 kDa サブユニットにのみ存在すると考えられます。SERTAD3/RBT1 に結合します。TIPIN と相互作用します。機能:DNA の組み換え、修復、複製に必要です。RP-A の活性は、一本鎖 DNA 結合とタンパク質相互作用によって媒介される。、PTM: 細胞周期依存的に (S 期から有糸分裂まで) リン酸化される。DNA 損傷時に ATR によってリン酸化され、核フォーカスへの移行を促進する。Ku および DNA 存在下では PRKDC/DNA-PK、および CDC2 によって in vitro でリン酸化される。細胞内局在: PML 核小体にも存在する。DNA 損傷時に個別の核フォーカスに再分布する。、サブユニット: 70 kDa、32 kDa、および 14 kDa 鎖のヘテロ三量体。DNA 結合活性は 70 kDa サブユニットにのみ存在すると考えられる。SERTAD3/RBT1 に結合し、TIPIN と相互作用する。、

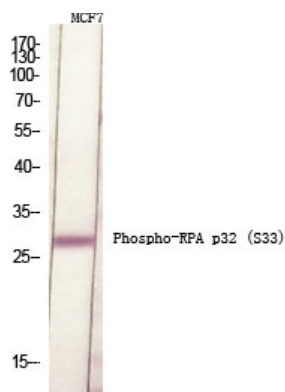
## 研究分野

DNA 複製、ヌクレオチド除去修復、ミスマッチ修復、相同組換え、

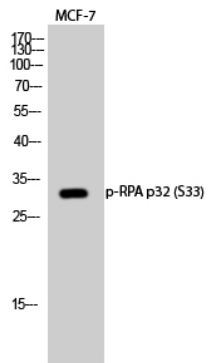
## 画像データ



アドリアマイシン 0.5ug/ml で 24 時間処理した NIH/3T3 細胞のライセートを、RFA2 (リン酸化 Ser33) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した Phospho-RPA p32 (S33) ポリクローナル抗体を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。



1: 500 に希釈した Phospho-RPA p32 (S33) ポリクローナル抗体を用いた MCF-7 細胞のウエスタンブロット解析。